

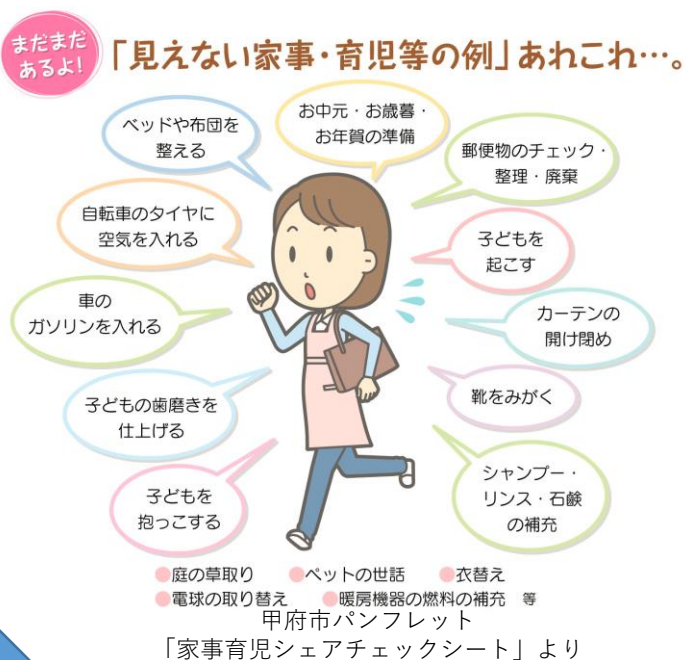
①「見えない家事・育児」

■見えない家事とは

家事というと「料理」「洗濯」「掃除」のようなものを思い浮かべるでしょう。しかし、洗剤の補充、ストックの管理、夕飯の献立を考えるなど、細かな家事には明確な名前のないものがほとんどです。このような家事のことを「見えない家事」といいます。

見えない家事を考える

R3年6月「パネル展」にて来場者の方にも見えない家事を考えていただきました。



さらにネットで検索

【コロナ禍での新名もなき家事】 ダイワハウス調査

- ・ マスクの手洗い
- ・ 手やテーブルなどの消毒
- ・ マスク・消毒液・ペーパーの在庫管理・補充
- ・ 検温や家族の体調管理
- ・ 子どもへのマスク着用の管理(屋外では外していいなど)
- ・ テレワーク中の配慮



最近では、共働き夫婦も増え、女性が家事をするというものだという意識は薄れてきています。しかし、依然として家事・育児の負担は女性に偏っているのはこうした見えない家事を女性が担っているからではないでしょうか。このような「見えない家事」も夫婦で分担していくことで、家庭内での男女共同参画が進んでいくでしょう。

②内閣府

「令和2年版 男女共同参画白書」

【特集】

「家事・育児・介護」と仕事のバランス～
個人は、家庭は、社会はどう向き合っていくか

✓ 第1節 「家事・育児・介護」と「仕事」のバランスをめぐる推移

(総務省「社会生活基本調査」昭和51年→平成28年)

- 「家事・育児・介護時間」女性は25～29歳、30代で大きく減少、男性は低水準だが増加
- 「仕事時間」女性は増加、男性は全体では減少しているが、30～40代は変わらない

実は

30代までの女性の家事が減少し、仕事が増加しているように見えるのは晩婚化や未婚化によるもので、結婚している女性だけを見ると家事時間は変わりないか増加している。

✓ 第2節 家族類型から見た「家事・育児・介護」と「仕事」の現状

(一日当たりの家事育児等時間と仕事時間) 対象は有業者で仕事がある日

夫婦世帯の女性は家事が男性の2倍になる

子どもがいる世帯では女性は家事も育児も男性の2倍以上

子どもがいる世帯の男性は仕事が女性の1.3倍になる

男性の家事時間は家族類型でさほど変わらない

仕事時間が最長なのは就学前の子どもがいる世帯の男性

仕事時間が最短なのは小中学生子どもがいる世帯の女性

✓ 第3節 より良いバランス・分担に向けて

～「家事・育児・介護」における「働き過ぎ」を防ぐ視点～

【働き方改革】

個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を選択できるようにする。また長時間労働を是正することにより、個人のワーク・ライフ・バランスの改善に結びつくこととなる。

【男性の家事育児等への参画】

家事・育児・介護の負担が女性に偏っている現状に加え、女性が仕事に就いたり、仕事を続けることが困難にならないよう家庭内での参画が必要となる。

【外部サービスの活用】

日本の育児時間は諸外国と比較して極立って長く、家事支援サービスや育児支援の利用は低水準にとどまり、一般的な利用からはほど遠い状況である。介護についても外部支援に頼らない介護をしている場合が多い。外部サービスを柔軟に取り入れることで家事・育児・介護はもとより仕事への取り組み方を含めた生活設計の選択肢が増えるとともに、過度な負担に起因するストレスを改善できることが期待される。

③CMから見るワークライフバランス

「#洗濯愛してる会」



花王洗濯洗剤「アタックzero」

食品のCMの中で調理している人の性別は2008年ではほぼ女性だった。2014年に女性より男性が上回り、以降多くの男性が起用されている。掃除洗濯用品のCMについてもまだ女性の方が多いものの差が縮まってきている。

「私の上司は、家電にハマった男」



パナソニック（エコナビ）

男性起用の背景には、共働きの増加や男性の家事・育児参加がある。「女性の仕事」のように描かれた宣伝動画などが炎上するなど、こういった動きを企業側も敏感にとらえ、家事・育児観の変化をとらえたCMづくりをしていると思われる。

▶▶▶ 一方で

CMの中の男性は「簡単料理」や「家事初心者」として描かれているものも多く見受けられた。

「洗濯科学」



P&G洗濯洗剤「アリエール」

▶▶▶ 現在では

男性も女性も同じように肩を並べているCMが増えている。このようなCMが増えることで若い世代や、子どもには自然に男女共同参画の視点が身についていくのだろう。

うちのごはん



キッコーマン

中華が、家族を熱くする



クックドゥ

「暮らしのリズムを整えよう」



ダスキン

「ふだんプレミアム」



パナソニック

皆さんもぜひワーク・ライフ・バランスの視点からテレビCMを見てみてください